

超高齢社会のニーズは、 介護が必要になっても安全・安心な住まい。 それを提供するのが、*ケア付高齢者住宅 「ケアビレッジ・リビング」です。

高齢者の住まいへのニーズ。それは、住み慣れた地域でいつまでも安全・安心に過ごせ、そして生きがいのある生活を送ることです。
パナホームは、そうしたニーズに応える*ケア付高齢者住宅「ケアビレッジ・リビング」をご提案。
住宅会社として積み重ねて来た経験を活かして生まれた優れた住環境に介護サービスをプラスし、入居者に大きな満足を提供いたします。

■ケア付高齢者住宅 「ケアビレッジ・リビング」の特長

鉄骨軸組構法をもっと強くもっと自由にと、パナホームが独自に進化させた構法。地震に負けない強さ、優れた断熱・遮音性能。プランの自由性を飛躍的に向上させました。

HS
(ダブル)
構法

ケア付
高齢者住宅

Care Link
System
ケアリンクシステム

“ケア付き”の安心感から入居者が集まり、安定した事業が実現できます。

パナホームグループが、建物を一括借上げし、事業者さまにサブリース。オーナーさまの収入は安定し、事業者さまも初期投資を抑えて開業できます。

*パナホームの「ケア付高齢者住宅」は、国が推進する「サービス付き高齢者向け住宅」に対応することができます。
また、「サービス付き高齢者向け住宅」は各都道府県の行政指導により、設置基準等が異なることがあります。

あなたと夢を、こいっしょに。
PanaHome **ご相談 問合せ先** 〒754-0015 山口市小郡大江町6番31号パナホーム(株)山口支社 医療・福祉施設チーム
TEL:083-972-4304 <http://www.panahome.jp/>

書籍紹介＆マネーエッセンス

書籍紹介

病院がトヨタを超える日 838円(税別)

「ワンコイン診療」で医療費半減、というユニークな医療経営を実践する著者は、医療崩壊の問題の本質は、「国民皆保険」にあると鋭く説いている。そして、日本の医療の本質である「ローコスト・ハイオリティ」医療は世界に通用し、やがて輸出型企業の代表格である「トヨタ自動車」のように、海外で通用するものになれると確信し、国は医療を「産業」と捉え、育成すべきとの考えを主張している。さらに、病院経営者が経営感覚を持たないのは、彼らが「自分は慈善事業をやっている」「医者とは聖職であり、先生であり、ほかの職業と違うのだ」と思っているからで、この部分の意識改革がされない限り、いくら公金をつぎ込んでも“無駄”と締めくくる。医療の問題を医療者側から切り込んだ、必読の書。



マネーエッセンス

日本富裕層は、どれくらいいるの？

一般的に1億円以上の「金融資産」を持つ人を「富裕層」と呼ぶ。その富裕層、日本には一体何人いるのか？この問いの答えが、10/8号の週刊ダイヤモンドに掲載されている。

日本の富裕層は174万で、世界第2位とのこと。なにか、実感わかない話ではないだろうか。それもそのはず、日本の富裕層の9割が45歳を超え、その大半が高齢者という。他のアジアの国では45歳以下の富裕層が4割を占める、というのである。同誌の調査によると、富裕層の職業別では会社経営者がトップで、医師・歯科医師がそれに続く。世帯年収では、3,000万から5,000万円未満がトップ、2,000～3,000万円がそれに続く。

それにしても、職業別順位の4位である「無職・学生」には驚いた。こんな国は日本だけかもしれない？

■富裕層国別順位
1.アメリカ
2.日本
3.ドイツ
4.中国

■富裕層職業別順位
1.会社経営者
2.医師・歯科医師
3.会社役員
4.その他
(無職・学生など)

出版・広告・マーケティング・SP・CATV(番組・CM) 企画・制作



株式会社 エスピーデータ山口

*エスピーデータとは、「sales promotion data」のことで、販売促進・需要拡大・認知度向上に関する、資料や情報の提供・発信を主たる業務としています。

〒754-0896 山口市江崎2229-3 物流センター2F

Tel 083-988-2365 Fax083-988-2366

URL: www.spdata.co.jp E-mail: info@spdata.co.jp

介護note

介護関連事業者様向け “マーケティング＆マネジメント情報誌”

2013 Feb

vol. **2**



介護関連事業者様を応援する情報誌 「介護note」



介護事業への必要性が高まると同時に、利用者獲得競争が本格化する今、高齢者ニーズに合った取り組みや改善がますます求められます。

見られそうでなかなか見られない他施設の様子や、運営上の様々な問題解決にお役立ていただける情報満載の「介護NOTE」。隔月発行で皆さまへお届けしています。



ケアマネジメントの質を向上させる！厚労省が示す対策案とは？

厚生労働省が行った「介護支援専門員(ケアマネジャー)の資質向上と今後のあり方に関する検討会」で、ケアマネジメントの課題や、ケアマネジャーの資質向上に関しての対策案として、地域ケア会議の制度化やケアマネジャーの研修内容の見直し等が挙げられました。

地域ケア会議は介護事業者や医療機関の関連職種、行政関係者、地域住民などが参加する、困難事例などを検討する会議で、地域包括支援センターが中心となって開催しています。

厚労省の案は、地域ケア会議を介護保険制度に明確に位置づけ、あらゆるケースのケアマネジメント内容を検討することで、ケアマネジャーを教育・支援していくというものです。ケアマネジャーの資質向上に関しては、共通の「課題抽出シート」を使い、ケアマネジメントの課程を可視化することや、研修における医療的な知識に関するカリキュラムの拡充、演習・実習の強化といった案が示されました。



厚労省が「介護支援専門員(ケアマネジャー)の資質向上と今後のあり方に関する検討会」に示した対策案(抜粋)

介護保険における自立支援の考え方の徹底

- ・自立支援を前提としたケアマネジメントの徹底

地域ケア会議の機能強化

- ・「地域ケア会議」を制度的に位置づけ、個別ケースの分析を通じてケアマネジャーを支援
- ・介護報酬面での評価の検討

保険者機能の強化

- ・居宅介護支援事業所の指定権者を都道府県から市町村に

医療との連携強化

- ・重度者のケアプランへの医療サービスの組み込み促進
- ・在宅復帰の際の医療との適切な連携の促進

介護支援専門員とケアマネジメントの質の向上

- ・共通の「課題抽出シート」の導入
- ・ケアプランの評価・見直しに関する書式の導入
- ・実務者研修受講試験の受験要件の見直し
- ・介護支援専門員の研修カリキュラムや研修方法の見直し
- ・研修指導者のためのガイドライン策定

施設における介護支援専門員のあり方の整理

- ・在宅や地域との連続性を確保するケアマネジメントのあり方を検討
- ・介護支援専門員と生活相談員などとの関係を整理

新規施設 紹介

サービス付き高齢者向け住宅 「ウィンズタウン大内」

サービス付き高齢者向け住宅できめ細やかなサービスを利用者の生活“我が家以上に”を目指す

山口市大内長野にある「ウィンズタウン大内」は、居室数17室(2人部屋2室)のサービス付き高齢者向け住宅で、デイサービスが併設されています。買い物に便利な商業施設も近く、山口ICからのアクセスも良好で、おまけに協力病院とも目と鼻の先という好立地。それでいて、便利な場所故の盛んな交通量も全く気にならないほど閑静な場所です。居住スペースには24時間体制で利用者の暮らしをサポートする環境が整っているという、今注目のサービス付き高齢者向け住宅です。そんな安心感に満ちた「ウィンズタウン大内」を運営する、株式会社ウィンズオペレーティングの代表 重富 豊さんにお話を伺いました。

昨年10月からのオープンということで真新しい建物の中は、居心地の良いあたたかさを感じさせながら、高級感、清潔感に満ちた印象です。“我が家以上に”というコンセプトのその言葉通り、サービスにはあらゆるこだわりが見てとれます。

「こだわっているのはズバリ食事です。設備が整っていて、施設内が綺麗なことは基本ですが、人間にとって“食べる楽しみ”ってとても重要だと考えています。味はもちろん、盛り付けや器にもこだわって、“ごはんの時間が楽しみ”そうやって生活して頂くことで、自然といきいきされる様に思いますね。」

施設内の大きな厨房でつくっている食事は出来たてであたたかく、旬の食材をふんだんに使った料理で“ちょっとした料亭にでも行った気分になる”と大好評なのだそう。

さらに、「居心地の良さ」ということに関しては、スタッフ皆さんの徹底した対応に秘密があります。新たにサービス付き高齢者向け住宅を開設するにあたり、代表の重富さんをはじめ集まったのはケア



●明るく開放的な共有スペース



●居室の様子、ベッド横にはナースコールが完備



サービス付高齢者向け住宅「ウィンズタウン大内」

のプロフェッショナルたち。医療福祉の世界で生きてきた面々にとつては、これまでの延長線上に“その仕事”があるという感覚だったそうですが、実際は異なる部分が多々あったとか。

「ケアに関しては皆経験も自信もありました。しかしサービス付き高齢者向け住宅となると一味違う。例えば利用者の方の食事や入浴など、時間についてもきっちりと決め過ぎてはいけません。利用者様それぞれのライフスタイルがありますから、そこに合わせるという意識が不足していました。ケアスタッフであることと同時にコンシェルジュでないとはいけません。スタッフへはいわゆる“おもてなしの心”のようなものを常に念頭に置いて行動するようにと伝えています。」

今までの利用者は我慢をしていたのではないかと重富さんは言います。“その人らしい生活”を優先事項としてとらえることで、利用者にもっと喜んでもらえる。そしてこれはサービス付き高齢者向け住宅だからこそ出来ることなのだ。

「利用者様が満足されそうに生活をされているということは、ご本人様はもちろんご家族の“安心”につながります。ご本人そしてご家族の笑顔が見られた時、やっぱりサービス付き高齢者向け住宅を始めてよかったと思いますね。」

もっと自由で、快適で、自分らしい生活を送ってほしいという願いで開設された「ウィンズタウン大内」。この理念をさらに確かなものにするために、重富さんの挑戦は続きます。

ご入居に関するご相談・施設見学など、お気軽にお問い合わせ下さい!!

サービス付高齢者向け住宅

ウィンズタウン大内

〒753-0211 山口市大内長野814番地1

TEL.083-941-6238

FAX.083-941-6258



設計・施工・コンサルティング パナホーム(株) エイジングチーム TEL 083-972-4304